



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065 編集 早川清志 題字 島崎洋路

『知恵を絞って、さあ搬出!!』

通年コース第八・九回開催報告「間伐・集材」

平成25年度版『森林・林業白書』の第 1 章「林業と山村」の中の1節1項の『林業生産の動向』の小見出しは、2段

「近年の素材生産量は増加傾向」、3段「素材価格は長期的に下落傾向」、そして「山元立木価格はピーク時の1割〜2割」そして4段「主伐の立木販売収入は育林経費を下回る」と続いています。素材とは3m、4mなどと定寸に切られた丸太のことで、原木ともいいます。その素材(国産材)生産量は2001年の1

509万立米を底に、徐々に増え、2013年は1965万立米となっております。一方その価格は、1986年をピークに下落傾向であり、山元立木価格(林地で伐採前の木材価格)は1980年代の1〜2割となっておりますという事です。素材価格が下落しているうえ、人件費や輸送費等の伐採、運搬経費上昇が拍車をかけているのが原因です。さらに4段、首尾よく収穫した丸太が市場で売れ

たとしても、伐採費や運賃を差し引くと、植林や下刈り、間伐等にかかった育林経費を下回り、白書では具体的な金額を示したうえで、半分程度しか戻ってこないと述べています。

平成26年度版、および平成27年度版の白書でも『林業生産の動向』の中に、判で押し

たような記述、「近年の素材生産量は増加傾向」、「素材価格は：下落傾向」、「山元立木価格は：1割〜2割」が見受けられます。丸太の国内生産量は漸増しているものの、需要の伸び悩みから需給バランスが崩れ、価格は安値安定の状態となっております。平成27年度版の白書には、2014

年の山元立木価格が載っています。3月末時点でスギが2968円/立米、ヒノキが7507円/立米、マツ類が3706円/立米で、いずれも前年比は増とのこと。現在の補助金体系は、間伐木の搬出とセットのうえで、という方向にシフトしている

ので、できれば間伐木を搬出し、市場に出したいのですが山元価格が伐採、運搬経費を下回ってしまうと、出せば出すだけ赤字が増える、という事態が起こるのです。そして全国の人工林のかなりの部分が、こういった山元立木価格がマイナスである山林である、といえるのではないのでしょうか。

林業従事者数の下げ止まりの傾向は見えるものの、全国の山林の4割当たる1000万haの山林の整備は、わずか5万人余(2010年)の人

達に委ねられ、75m/haは欲しい林道密度も、いまだ20m/ha弱に留まっています。一方で、高性能林業機械の普及が徐々に進み、またボランティアグループやNPO等の頑張りなど、明るい材料はいくつもあります。知恵を絞って先人の作ってくれたこの貴重な財産を何とか生かしていきたいものです。



キャタトラが空荷で林道を上っていった



丸太をたくさん積んで下りてきた



ウィンチの操作で材を寄せて



慎重に積み込む

計 見学・間伐・林道設計 木材市場の見学と、午後は間伐のつづき。建具店見学は都合で10月24日(土)とします。作図用筆記用具持参



こちらは随分”さま”になってきた



初めての伐倒練習、太めアカマツ

次回以降の予定 8月21・22日(金・土) 鳳寺ヒノキ林で間伐とキャタトラで集材、二日目は野底の私有林で間伐を行いました。21日夕方は前回延期になった暑氣払いも。先生もご参加。参加者/有賀さん、小口さん、北原さん、小池さん、渋沢さん、都筑さん スタッフ/和泉、早川

専門コース第3回開催 9月11・12日(金・土) 少し難易度の高い現場での伐倒を考えています。8時20分鳩吹集会所集合

通年コース第10・11回 9月18・19日 (金・土)



初めまして、夏の集中コースに参加させて頂いた木村と申します。生まれも育ちも東京の品川です。情けないことに最近まで草や木に全く興味が無く、スギとヒノキの区別もつかず、草もすべて雑草あつかいでした。しかし仕事の気分転換や何か考え事がある時は丹沢の山へ行ったりフレッシュアップしてました。それが60才近くになって人生を振り返った時、自分が山や森林に助けられ癒されてきた事に気づき、何か恩返しが出来たら、と思う様になりました。とは言うものの、何から手を付けたらよいのか解らず登山道を登っている、そこで階段作りや補修作業をしているボランティアのグループを見つけ、このグループに加わられたらと思いました。

後で解ったのですが、このグループは、『みろく山の会』という登山同好会で、神奈川県横浜に事務所を持つ800人の会員で組織される

会で、年間500回の山行を企画する団体で、その中の自然保護部というグループが行なっていました。この会に入ってから2年が過ぎ、丹沢の大倉尾根・鍋割山・大山の登山道整備と、丹沢近辺の植樹や土砂が崩れている所にミヤマクマザサ・タイアザミ・カモイグサなどの苗を植えて土の流失を防いでいます。



また、樹木や花の名を少しづつ覚えてくると、植物や動物の知識をもっと付けたいと思ひ、神奈川県にある『ミドリトラストの会』という所が主催する、かながわ森林インストラクターを募集しているのを知り、応募しました。このかながわインストラクターの仕事は、東京都民・神奈川県民のボランティアの参加者を集め、森林づくりの手伝い(間伐・枝打ち・下草刈り・竹林整備・植樹)などを指導する事や、大手の会社の新人研修として間伐・下草刈りを通

じて社会貢献の心を養う手伝いをする事、また小学校・中学校・高等学校の生徒が森で体験活動をして森や山の必要性を知ってもらうなどの事を行い、年間で数千人のボランティアの人々に森林の大切さに気づいてもらうという活動を行なっています。この組織の良いところは、間伐や枝打ちなどについて何も知らない都民・県民の人を集め森づくりをしている所で、一日2時間〜3時間の作業体験で100人が手鋸で2本切ると200本の木を整理出来ること

で、まさにマンパワーです。そしてそのボランティアの人々に森での楽しさや充実感・達成感といったやりがいを持ってもらえる事です。これからの日本の森林にとって必要なことは、この様にどれだけ多くの人に森林の大切さや役割を理解してもらい、体験し感じてもらうことだと思います。都会と森林を

最近になってですが、日本の木材の流通に興味が出てきました。国土の70%の森林、外国材の価格や林道の整備不足などもありますが、これだけの森林をしっかりと利用できるのはとても残念です。

た外人が江戸の川を見て、あまりの綺麗さに驚いたそうです。当時ロンドンやパリの都会では、産業革命で人が集まり、川は廃棄物や汚物で溢れて悪臭が大変でした。しかし日本では人が集まっている江戸では里山や農村と繋がりが深く、家を建てる木材は山から運ばれ、江戸で出た人糞は畑の大事な肥料として取引が行われるなど、都会と里山・農村との太いパイプがありました。なんとかもっと多くの人が行き来できる国になると森林も変わってくると信じています。

スギの学名(Cryptomeria japonica)の意味は、(隠された日本の財産)、私もそう思います。森林を利用していない現在の状況はなぜなのか?そのことを知りたいと思ひ、西丹沢の山主さんと話し合っ、所有している山林で、どの程度の人工林が間伐遅れなのか、どの程度の間伐をすれば、どのくらい下草や植物の成長具合によって変わ

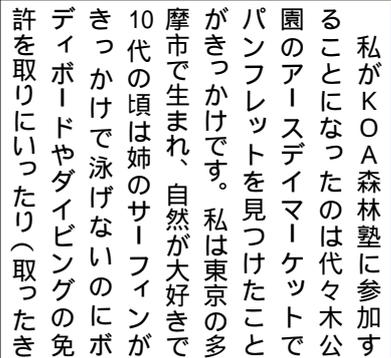
るのかを、科学的に答えを出して実際に間伐し、またその間伐材を切り出して利用できるか、までを行なうグループです。まだ、出来たばかりの組織なので試行錯誤の連続で、一人一人が持っている知識や技術を出し合っ健康な森にしていければと思っています。その為にも、もっと知識やスキルを身に付ける必要を感じ、このKOA森林塾で学ぶべく参加させて頂きました。とても役に立つ知識や技術を学べ感謝しています。しかし、一番の収穫は、早川先生・小泉先生の人柄に触れた事です。特に島崎先生の生き様は、まるで宮沢賢治の『アメニモマケズ』を実践されている様に感動しました。

以前聞いた話で「人は何を残すか 地位・名誉を残そうとする者は下なり、金・財産を残そうとする者は下の下なり、人は心を残して良しとする。」という言葉思い出しました。現在の状況の荒れた人工林を見ると、金や財産だけを儲けようとした心が見えます。私は、今回島崎先生が一人で手を入れている森を見て、心を残して造る森がどれだけ素晴らしいかを感じさせられました。私もまだ20年ぐらいは動けそうなので、どれだけ森林に心が残せるか努力したいと思います。

あと、最後に、先月丹沢の登山者遭難救助隊に入りました。丹沢はそれ程広いエリアではないのですが、年間で数人の登山者が亡くなっているとのこと。先日、沢で遭難救助訓練がありました。消防隊や警察官の若手に混じった訓練は、悲惨なものがありました。もう少しで私が救助される所でした。山や森に入り始めて2年目ですが、山や森林でもさまざまな仕事をもち生活をしている方々に出会い、その思いに触れられた事はとても嬉しく思います。これから山や森林にかかわって知識やスキルを身に付けたいと思っていますので、これからもお付き合いのほどよろしく願います。

私がKOA森林塾に参加することになったのは代々木公園のアイステイマーカーでパンフレットを見つけたことがきっかけです。私は東京の多摩市で生まれ、自然が大好きで10代の頃は姉のサーフィンがきっかけで泳げないのにボディーボードやダイビングの免許を取りにいたり(取ったき

山者遭難救助隊に入りました。丹沢はそれ程広いエリアではないのですが、年間で数人の登山者が亡くなっているとのこと。先日、沢で遭難救助訓練がありました。消防隊や警察官の若手に混じった訓練は、悲惨なものがありました。もう少しで私が救助される所でした。山や森に入り始めて2年目ですが、山や森林でもさまざまな仕事をもち生活をしている方々に出会い、その思いに触れられた事はとても嬉しく思います。これから山や森林にかかわって知識やスキルを身に付けたいと思っていますので、これからもお付き合いのほどよろしく願います。



リレー通信
『出会いは宝物』
菅原 由香

りやつていない) シュノーケリングをしたりと、海が大好きでした。歳を重ねてゆくに、つれ森や樹にも惹かれていき、一時は林業に興味を抱きました。素人にはとても敷居が高く、憧れで終わります。それから数年経ったあの日、アースデイでKOA森林塾に出逢います。

えっ? 誰でも森の手入れを学べるの?! キー!! と嬉しく、とつてもワクワクしたのを覚えていきます。

普段は土日がほとんど仕事なのでアースデイは行けないのですが、その日は幸運にもグアテマラのマヤナッツというフェアトレード商品を扱う友人のお手伝いをさせていたでいていました。皆様にもマヤナッツの素晴らしさをお伝えしたいので、ご紹介させていただきます。

代表の大田さんはグアテマラが大好きで何度も何度も訪れていたある日、森が燃えているのを目にします。『森が燃えているのは、とても悲しいことでした。森には、貴重で多様な樹木や植物もたくさん。そして共に暮らす動物達。すべてのいのちが一瞬にしてなくなっていくのです。ほとんどが安い牛肉を作るための牧場や、バイオエタノールのための畑にもなります。先進国の食やエネルギーのために、地球の裏側の森が燃や

されるという横図を知り、とてもショックでした。なんとかしなければ、地球上の森がなくなってしまう。それがマヤナッツプロジェクトを始めると、大きなきっかけだったそうです。古代マヤの人々が大切にしていた森には、彼らが自分達の食料のために植えたラモンという木がたくさんあります。現代の人達はほとんど食していません。栄養豊かなラモンの実を使って、森を守り、みんなの暮らしも豊かにする仕事を創っていったら、というアイデアが現地の女性グループとの出逢いから形になっていきました。ジャングルに自生するラモンの実を拾って収穫したものを換金し、仕事を持つことが出来なかつた女性達がラモンの加工をする中で仕事を生み出し、それが森を守ることにつながります。森、人、動物、植物、みんながハッピーになる持続可能なサイクルです。最初は森に価値があると思わなかつた人達が、今では森と共に存することが当たり前になってきています。しかも大飢饉があつたとき、マヤナッツだけで生き延びたというくらい栄養豊富なスーパーフードです。飲んだり食べたりする人も元気で健康になるんです。大田さんの今までの経緯を聞いてからその純粋な美しい人柄に惚れ込んでしまい、たま

にお手伝いに行かせていただいています。その度に素敵な人や物との出会いがありました。森林塾との出逢いはまさに最高のプレゼントでした。話は戻りますが私は海や山、自然の中で癒されるうちに、少しずつ環境のことに興味を持つようになり、世界にはあまりにもたくさん問題、課題がありました。地球温暖化、砂漠化、原発、貧困、飢餓、人身、臓器売買、ストリートチルドレン、少年少女兵、差別や偏見、宗教、戦争、遣伝子組み換え作物、農業による土壌、環境汚染、今までのない新たな病など、あまりにも大きなたくさん課題に自分がとても小さく無力な存在に感じ、何からしたらよいのかわからない。一歩踏み出す勇気もなく、悶々とした日々過ぎていきます。

くさんの人に配布し、私に出来る事を提案してくれました。(私はそれからマイ箸、マイ水筒、マイバックを持参しはじめます) 中国やブラジル、南アフリカでは植林ツアー、日本では子供も参加できる、皮むき間伐を開催してました。路上詩人やドキュメンタリー映画の製作(それまでの苦労話がとても面白いです。本もたくさん出版して先に行動してました。元お笑い芸人だけあつて、何でも楽しくアホになって活動してるととても面白い、子供や女性が好きなんです。

私はその自給自足の村がある小豆島に行き、裏山の木をナタやノギリで伐つたり、火をおこしたり自給自足体験をさせていただきました。てんつくマンが主催する植林ツアーでは2009年の夏、南アフリカに総勢120人で木を植えに行きました。現地のNGO FTFA(アフリカに食と木を)代表ジュネス・パークさん、地球を歩きながら木を植えているアースウォーカーのポール・コールマンさんとパートナーの菊地木乃実さん達の協力のもと、学校へいき子供たちにパーマカルチャーを教えるためにながら無農薬野菜やハーブを植

えました。貧困地域では庭に果樹を植えさせていただき、エイズ患者のいるホスピスも訪ねました。日本から一緒に参加してくれたバンド「ファンキスト」の毎日のLIVEは本当に素晴らしいです。ポーカーの西郷さんは南アフリカ人と日本人のハーフで、アパルトヘイト時代のリアルな話を聞かせてくれました。彼の幼い頃の辛い過去も、南アフリカの悲しい過去も、みんなが分かち合つた夜のLIVEでは国や肌の色を超え、みんなが肩を組みファンキストの音楽で一つになりました。ただの植林ツアーではありませぬ。ね。みんな仮装してアホになつて歌つて踊つて植林するんです! そしていつか、大きく成長した木々が人々を癒してくれましよう、暑い日には木陰で涼む事ができますよ。う、果実が空腹を満たしてくれますよ、そんな想いを抱きながら。

たくさんの仲間と出逢えなすぎた素晴らしい旅も帰国してはまた、日々の忙しい生活に戻つてしまいました。またしても悶々と毎日過ごす中、311が起ります。私は新宿のビル8階で仕事をしていました。ものすごい揺れのなか、死を感じました。きっと多くの人が死を目の前にし、想つたのは愛する人の顔。そ

して、私は人生を振り返るきっかけを頂きました。以前から双子の姉と農のある暮らしを考えていました。震災があり小さな娘のいた姉は、放射能の影響を心配し、行つたことのない九州に移住します。私は物資を集め福島に3月から3回ほどお手伝いにいきましたが、夏からは仕事に忙しくなり、街中も何もなかつたかのように通常通りになりました。そのうち罪悪感から逃げ出すようになりなな事から目を背けるようになります。

姉からは早く九州に来るよ、うに何度も言われましたが、なかなか仕事を辞めて知らない土地に行く決心ができません。更に悶々と毎日過ごしまし、そして1年半後、私も九州に移住する決意を。大分の山の中腹、湯布院から車で15分の、なにもない自然に溢れた素晴らしい場所でした。夜は窓から鹿さんたちを観察し、月や星を見ながら眠りにつく日々、本当に来て良かったと思えました。それから4ヶ月後、仕事先のご縁で一年間でしたが姉とRaw Foodの力フェをオープンすることに。食と環境は密接に繋がっている地球にも優しいローフードを通して微力ながらいろんな事を発信させていいただきました。見知らぬ土地で、たくさんの人に助け

